

大草谷津田いきものの里 自然観察会

アカガエルの卵はあるかな？

木下順次（千葉市）

日 時：2013年 2月 17日（日）10時30分～12時00分

天 候：曇りのち晴れ

参加者：大人13名 子ども4名

担当指導員： 太田慶子・木下順次

前日の土曜日は自転車に乗るのも怖くなるほどの大変強い風がふき、当日もやはり風と明け方の気温が氷点下となる冷え込みのため、冬を感じる一日となりました。当日9時ごろに下見をした時には、畦や水の張られた田んぼが一面霜柱と氷に覆われていました。霜柱は10cm近く伸びたものもあり、氷も3cm以上の厚さになっています。静かに耳を澄ませていると、太陽に照らされて少しづつ融け始めていた氷は、ピシッ、ピシッと音を立て、水面と氷のあいだにできた空気の泡が少しづつ動いて集まつてくるのを見ていると、生き物の気配を感じられませんが、谷津田自体が生き物のようにも感じられました。

10時半からの本番では、すでにかなり融けてしまい、一面氷の世界とはいきませんでしたが、霜柱や氷はまだあちこちに残っており、子どもたちもしきりに踏んづけたり、手にしたりして楽しんでくれました。不思議なのは、陽のあたる場所でもしっかり凍ったままの場所もあり、風当たりの具合や張られた水の深さ・流れなどが複雑に影響していると思われます。

寒さに参加者の集まりを心配していましたが、初めての方も含めて、多くの方が集まってくれました。初めにアカガエルとその卵塊の写真や、過去の産卵数のグラフなどを見てもらいながら、

- 千葉市にいるカエルの仲間では、ニホンアカガエルが一番早い時期に卵を産むこと
- 冬に水を張った田んぼが少なくなっている中、ここでは昔ながらの「冬水田んぼ」を維持していること
- 2010年～2012年にかけて169個⇒81個⇒17個と卵塊の数が急減、原因がよくわからっていないこと
- ニホンアカガエルにとって、産卵に適した水の深さは10～20cmで、深くても浅くともダメなこと
- 暖かい南風と雨が産卵をうながすと思われること

（⇒今年は2月2日にそうした条件が整い、大草をはじめ近くの3ヶ所で初めての卵塊が見られた）などを太田さんから説明していただきました。

その後、杉林から谷津田へ降り、耕作放棄したエリア内にできた木立池に産み付けられた卵塊を実際に観察してもらいました。ここには11個あることが14日の調査で確認されていましたが、調査時に立てられた小旗のうちの一つには卵塊がなくなっています。全部で10個が確認できました。融けかかっているとはいっても、厚い氷に接しているものもあり、卵塊は大丈夫なのかという質問がでます。木立池の水深はギリギリ10cm前後といったところですが、そんな中でもなるべく条件の良いところを選んだのでしょうか。ある程度の深さのあるところ、昼には陽が当るようなところに卵塊があります。卵塊はこの他に水の貼られた田んぼの中に3ヶ所4個うみつけられており、全部で14個を数えました。

この他、湧水が冬暖かく夏冷たく感じることや、空気は冷たくても地面付近は暖かいことなどを実際に体感してもらったり、冬でも元気に飛び回る野鳥たちを観察してもらいました。

参加者からは、「寒い時には寒い時ならではの観察ができる」という声があつたり、「氷が溶けたら何になる？」の問い合わせ、「春になる！」と答えたお子さんがいたりと、逆に教えられることのたくさんある一日でした。

※3月7日の最終調査では卵塊が83個になって、一昨年と同じ程度に回復しました。

